



加藤 元の



と暮らして  
みませんか

36

猫の爪は、前足と後足ではかなり形が違っていることに気付いたことがあるでしょうか。

後足の爪も足の指の中に引き込まれて、完全に隠してしまいうことが、できるのは前足と同じですが、爪の形がかなり違います。太く、曲がり方も少しゆるくなっている、先も前足ほど鋭くありません。これはいつも体重を支えたり、走るときに地面や床を強く蹴ったりするのに都合がよいように、使っているうちに変化してくるのです。ですから、猫の後足の爪を見れば、おおよそ、猫の年齢が分かるほどです。

猫の爪の数は前足が五本、後足

## 猫の足

## 爪とぎ 精神の健康に必要

では四本です。犬のように後足に爪が五本あるということはありません。

猫が爪を使うときは、出来るだけ足指を開いて爪をむき出しします。これは獲物をまわりから取り囲むように、爪を向かい合わせて捕まえるためです。そうになると、獲物は猫の爪から逃れることはできません。

また、敵と戦うときは、爪をいっぱいに広げて前足を叩きつけます。そして、自分の体を守るときは、あおむけになり四本の足を上に向けて、全部の爪を広げて防ぐのです。

よく猫が「爪をとぐ」といいますが、これはいつも爪を鋭く保つために新しくしているのです。

また爪とぎは、猫にとって、縄張りを示すうえでも、心理的に絶対必要なものです。爪とぎが十分にできないと、爪が伸びすぎて足の裏に突き刺さって歩けなくなることもあります。また、爪とぎの行為そのものが猫の本能で、猫の精神の健康のためにも必要なのです。

子猫の時から、爪とぎの気配が見えたら、すぐ爪とぎ器のところに連れて行って使わせ、好物のフードを二、三個与えてほめましょう。それで、家具や柱などの傷を防ぐことができます。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長)

《産経新聞2004年12月19日掲載》